

サントピア大竹



サントピア大竹は、平成6年に建設されたバリアフリー施設で、在宅福祉や地域福祉推進の拠点施設となっています。

複数の会議室のほか、軽運動室や創作活動室、社会適応訓練室など福祉利用を想定した部屋があります。また、ホールや和室、調理実習室などさまざまな機能の部屋があり、休館日も年末年始と国民の祝日だけという、開館日の多い施設です。

しかし、部屋全体の稼働率は14・4％で、ほとんどの部屋が一桁の稼働率となっています。

これは、福祉施設としてよく知られている反面、公民館と同じように部屋を使用できることは、あまり知られていない結果なのかもしれません。

毎年サントピア大竹で開催されている「大竹ふれあい健康・福祉まつり」の様子。



このたび、利用率向上のため、営利企業が利用する場合も、一定の条件を満たせば認めることにしました。今後は企業などが行う研修会や講習会などの活動にも利用できるようにします。

施設の利用状況を見てみましょう③ 大竹会館・サントピア大竹編

私たちがスポーツ活動や、文化活動に利用している社会教育施設等。効率的な施設のあり方を一緒に考えるため、施設の稼働率にスポットを当てています。

今回は、大竹会館とサントピア大竹の利用状況を紹介します。



公共施設マネジメント

問い合わせ
企画財政課 ☎2125

大竹会館

特徴的な機能

大竹会館は、ゆとりとふれあいの場を提供する施設です。

生涯学習活動のほか、同窓会や披露宴のようなレセプション会場としても使えるなど幅広い目的で利用することが出来ます。

また、700人を収容できるアゼリアホールが隣接するなど、市内に1つしかない機能を持つ施設です。

旧館

3階建ての旧館部分は、築50年を超える建物です。さまざまな広さの部屋を備え、長い間多くの人に親しまれてきました。

①



①旧館 ②新館 ③アゼリアホール

②



③

和室や洋室タイプの集会室、研修室のほか、調理実習室や茶生花室など10を超える部屋があり、結婚式用に式場や新郎・新婦の控室も設置されています。

※ ここまでに紹介した稼働率は、平成23年度から25年度までの3年間の平均です。

稼働率が低い施設はどうなるの？

施設は使われていないときにも費用がかかります。多くの税金を投入して、稼働率が低い施設を維持していくことになります。

現在の、人口減少といった社会情勢を考えると、あまり使われない施設を維持し続けるのは難しくなっています。

社会教育施設等の再編を進めています

これまで紹介してきたとおり、市内には稼働率の低い施設がたくさんあります。

また、老朽化が進んでいる施設も多く、全ての施設の今後を考え、整理する時期が近づきつつあります。

市では「社会教育施設等の再編基本方針 総論」と、各施設の今後5年間の方向性を検討した「各論」を策定しました。

しかし近年は、利用者が減っており、どの部屋も稼働率は低調です。一番高い部屋でも18・4％で、その他は一桁台の稼働率が目立つ状況です。最近では、結婚式の利用はありません。また一部の部屋は、団体や国の機関の事務所としても使われています。

新館

昭和59年に増築された新館には、レセプション機能を持つ大集会室があります。完成からしばらくは披露宴でにぎわいましたが、最近では、同窓会や懇親会、研修会などの利用に変わっています。

大集会室の稼働率は17・1％。大竹会館の中では比較的良好に使われている部屋です。

アゼリアホール

アゼリアホールは、平成2年に建設された施設です。文化ホールとして利用できるほか、体育館として屋内スポーツを楽しむこともできます。また新館や旧館とも渡り廊下で行き来ができるため、全館を一体の施設としてイベントを開催することもできます。

さまざまな形で利用できる施設ですが、体育館兼講堂の稼働率は23・3％。研修室2部屋の稼働率は19・3％と4・8％です。

大竹会館は、旧館部分を見直します

この中で、大竹会館の旧館部分は廃止する方向性を出しています。これは、稼働率が低いこともありすが、建物の耐用年数が近づいていると考えているからです。

実際の検討が始まるのはもう少し先ですが、他の施設にどれだけの機能を移すことができるかなどを検討した上で、耐用年数が経過するまでには、取り組みたいと考えています。



社会教育施設等の再編基本方針「総論」と「各論」は、市ホームページで見られるよ。

市政チャンネルから入って、「総合計画・行財政改革」のボタンをクリックしてね。